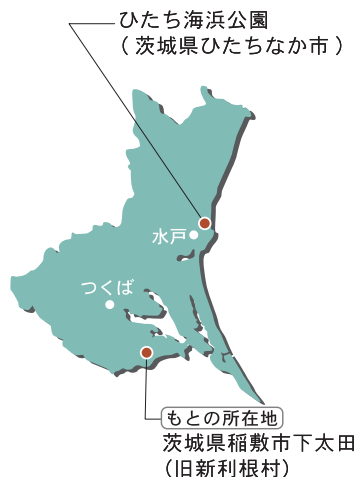


■ 稲作地帯から

旧土肥家住宅は、茨城県の南部、稲敷市下太田の新利根川に沿って広がる稲作地帯、かつての新利根村にありました。

土肥家は、江戸時代前期にこの地域へ新田開発のために移り住んだと言われています。主屋を建てたあと約 50 年、2 世代程度あとに隠居屋を建てたと考えられます。

土肥家は、代々、この地で農業を営んできました。関東地方利根川流域の典型的な農家でした。



古い民家

旧土肥家住宅は、江戸時代前期と中期に建てられたたいへんに古い民家です。隠居屋からは「宝永 3 年 (1706 年)」の墨書が発見され、建築年代がはっきりしました。間取りや工法の特徴、部材の年輪年代調査などによって、主屋は隠居屋より古く 1600 年半ば頃に建てられたと判断されます。

東日本では最も古い民家のひとつです。

主屋、隠居屋に共通している特徴は以下の通りです

- 外側の柱が 1 間ごとに立っています。
- 庵側に 2 間分の格子窓があります。
- 主な構造材としてシイが使われています。
- 柱と梁組みが上屋と下屋の構造となっています。



墨書



年代調査

監修者 宮澤智士：長岡造形大学名誉教授
一色史彦：建築文化史家
田中文男：建築家
今瀬文也：茨城民俗学会代表理事

旧土肥家住宅

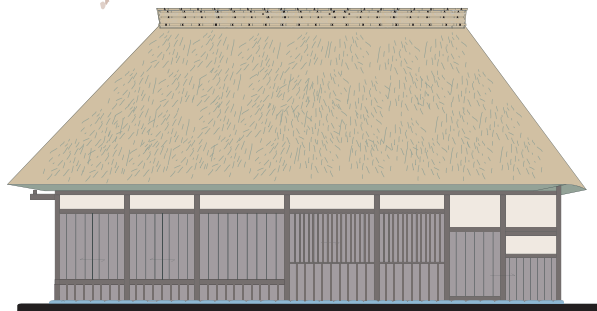


みはらしの里のテーマは、なつかしい村の風景と活動。江戸時代から昭和にかけての農村風景を再現していきます。みはらしの里に江戸時代前期と中期に建てられた旧土肥家住宅の主屋と隠居屋を移築復元しました。



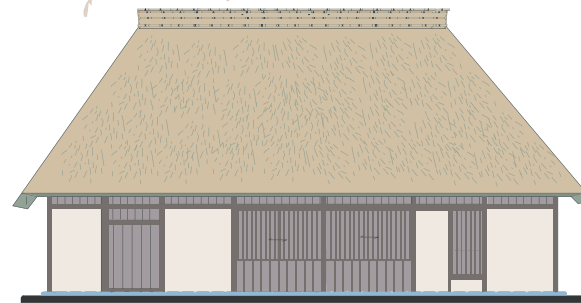
いんきょや
隠居屋

- 建設年代：1706年（宝永3年）
- 規 模：間口 13.6m
奥行 8.6m
- 延床面積：119.3㎡（36.2坪）



おもや
主屋

- 建設年代：1600年代半ば頃
- 規 模：間口 13.7m
奥行 9.7m
- 延床面積：133.9㎡（40.6坪）



旧土肥家住宅

ヘヤ（部屋）

家族の寝室や衣類の収納場所として使われていました。

オカッテ（お勝手）

煮炊きや食事の場として使われていました。

ザシキ（座敷）

正式な客を迎えるために使われました。

ゲンカン（玄関）

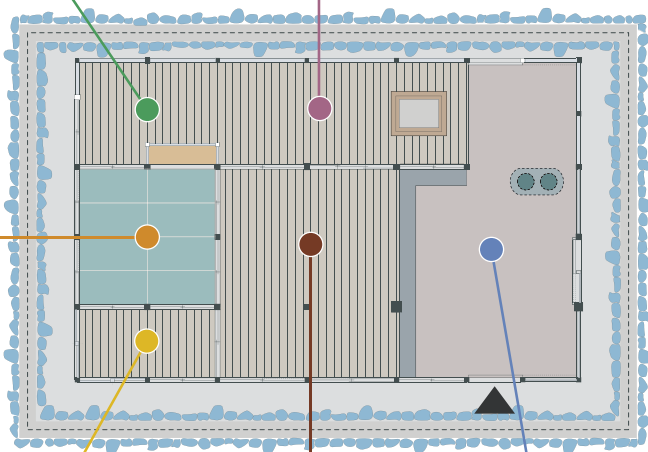
冠婚葬祭の時などの出入りに使われていました。

ヒロマ（広間）

日常的な来客や村人の集まりに使われていました。

ダイドコロ（台所）

屋内の作業場として使われていました。



チャノマ（茶の間）

煮炊きや食事の場として使われていました。

ナンド（納戸）

家族の寝室や衣類の収納場所として使われていました。

ダイドコロ（台所）

屋内の作業場として使われていました。

ザシキ（座敷）

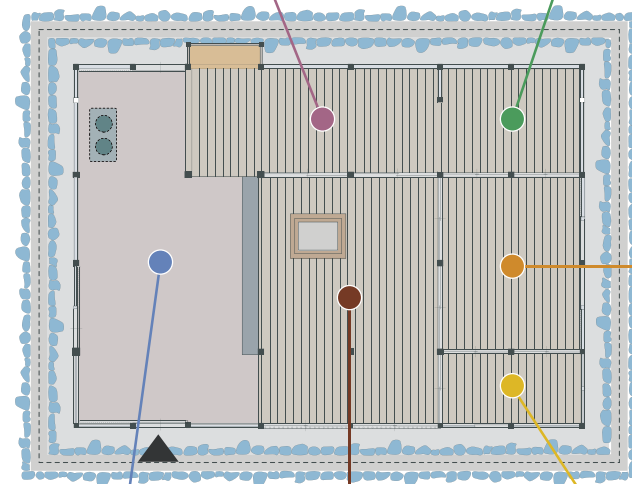
団らんの場として使われていました。

ナカノマ（中の間）

正式な客を迎えるために使われました。

オモテ（表）

「ナカノマ」の前室として使われていました。



主屋と隠居屋は、左右対称のよく似た間取りですが、柱の間隔が異なり、面積は主屋の方が大きくなっています。屋根は隠居屋には「せがい」と呼ばれる軒天井があり、隠居屋の方が大きい屋根になっています。

内部は、主屋には天井がなく、小屋組みや梁組み全体を見ることができます。隠居屋には、表側の3室には天井が張られ、まとまりのある空間となっています。また、ザシキには床の間、畳があり、表側と側面の建具の一部には障子も入っています。